



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～インフルエンザ感染について～

例年であれば今頃はインフルエンザが猛威をふるっているところですが、今シーズンも昨シーズン同様に季節性インフルエンザが全国的にほとんど検出されていません。昨年同様、この現象はコロナウイルスによるウイルス干渉とみられます。ウイルス干渉とは、あるウイルスの流行期間中は他のウイルスの流行が抑制される現象です。小児科で例えて言えば、インフルエンザ流行中はRSウイルスの流行が抑制されます。インフルエンザの流行が抑制されることは、インフルエンザによる小児の脳炎など重症化が抑制されることにつながり、朗報であると言えます。

～新型コロナウイルス・オミクロン株について～

東京都では1月21日から2月13日まで予定されていた蔓延防止等重点措置が3月6日まで延長されました。実際の感染状況データを見てみますと、今回の第6波では1月9日に実行再生産数のピークが認められた後はずっと低下しています。東京都のPCR陽性者数も1月末にピークアウトし、収束は間もなくとみられます。すでに第6波を乗り切った沖縄の状況を振り返ってみますと、オミクロン株による死亡率は0.006%でインフルエンザの致死率0.1%よりもだいぶ低いことが解りました。また、大阪のデータも同様に致死率0.02%と下がっており、死亡率・重症化から見て第5波のデルタ株よりもかなり弱毒化していることが判明しました。この状況は世界各国で同様に認められており、コロナウイルスの弱毒化に伴って欧米の国々では次々とコロナ規制解除やマスク解除が行われています。

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省は5～11歳の子どもに対する新型コロナワクチン接種を正式に承認しました。3月以降に始まる見込みですが、その前にワクチン接種副反応について考えてみましょう。まず、10代以下で新型コロナウイルス感染による重症化は13名、死亡は4名です（うち3名は基礎疾患あり）。一方、10代以下のコロナワクチンによる重症副反応は387名、死亡が5名です。新型コロナウイルスに感染してもほぼ重篤化しない小児では、ワクチン接種について慎重に判断したいところです。

厚労省から1月21日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係は不明ですが累計1444人の方が死亡、重篤副反応は6370名でした。これらの副反応報告は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表：1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

| | 感染症 | 患者数 |
|---|------------|-----|
| 1 | 胃腸炎(内11) | 190 |
| 2 | 溶連菌 | 105 |
| 3 | 新型コロナ | 19 |
| 4 | 突発性発疹 | 3 |
| 5 | アデノウイルス咽頭炎 | 2 |

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は
クリニックホ-ムページからご覧になれ
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど直しくお願い致します。

